

SKELETON INFILL STATIONS

■はじめに 「伝統」=SKELETON 「先端」=INFILL

銀座線とその駅は日本初の地下鉄として、当時の土木建設技術の粋を集め実現された東京の近代化を象徴する構造物である。日本初の地下鉄ということで一番浅いところに位置し、開削工法にて施工された。一般に深い所では、副都心線や大江戸線のようにシールド工法となるが、日本初の地下鉄ということで最も浅い所に計画されたために開削工法が採用でき、柱と桁が並ぶ土木構造躯体 (=SKELETON) が施工された。日本初の地下鉄だからこそ開削にて柱、桁構造となった SKELETON は、銀座線の他の路線とは違うアイデンティティーであり、伝統である。

ホームに立てば、昭和 2 年の開業当時から東京を行き交う人々を支え続けた、間隔を短く配した柱と桁が美しく並列する SKELETON を垣間見ることができる。昭和 2 年の開業から現在まで開業当時にはなかった技術が進歩し、電気、通信、設備、サイン、照明等の色々な付加物 (INFILL) が SKELETON に付されていった。今回の開業 85 周年記念のリニューアルにともない、伝統の SKELETON に、時代の技術進歩とともに付加された先端の INFILL を空間的に整理し、開業当時の SKELETON の美しさと時代の先端の INFILL が奏でる広がりのある空間をつくることを計画の目的とする。

Fig.1 銀座線竣工時の様子



①: 工事風景



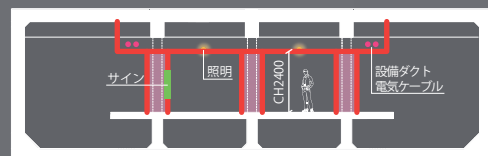
②: 上野駅



③: 田原町停車場

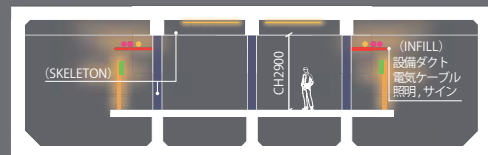
(出典) 土木建築工事画報

Fig.3 プラットホーム改良の考え方プラットホーム改良の考え方



(既存)

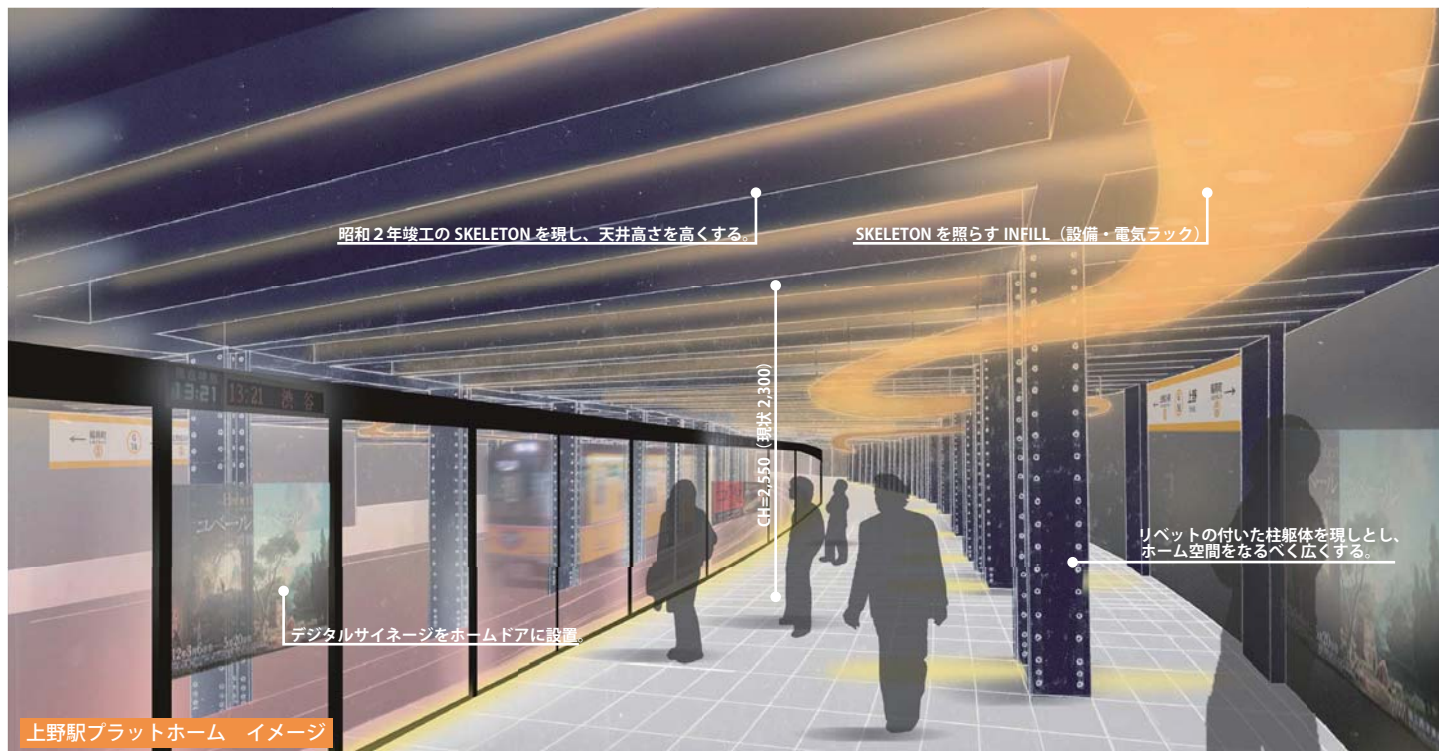
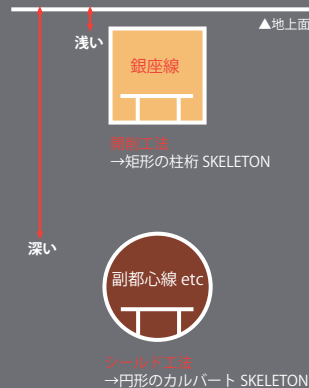
設備ダクト、電気ケーブル、照明を覆うように天井仕上材を、サインを覆うように柱仕上を設けている。



(改良後)

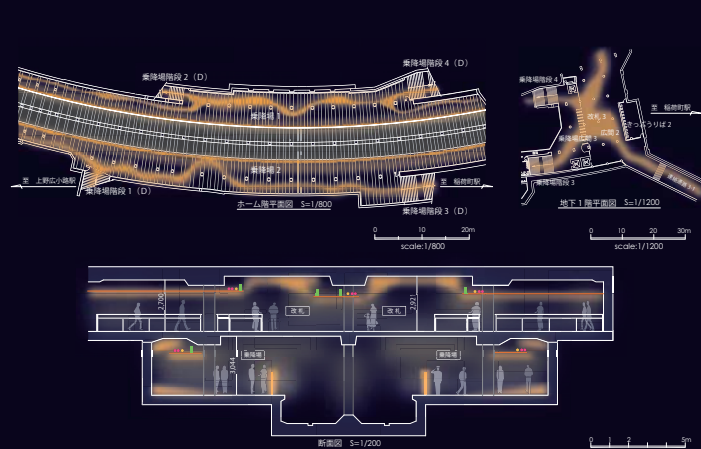
昭和 2 年の竣工時の SKELETON が現れた状態に戻し、竣工から現在までに付加された設備ダクト、電気ケーブル、照明、サイン等の INFILL をラックとホームドアにまとめて設置する。それにより、天井高さは 500mm、ホーム幅も仕上げの分だけ広がり、交通公共空間としてより視認性の高い空間となる。

Fig.2 工法の違いによる銀座線の特徴

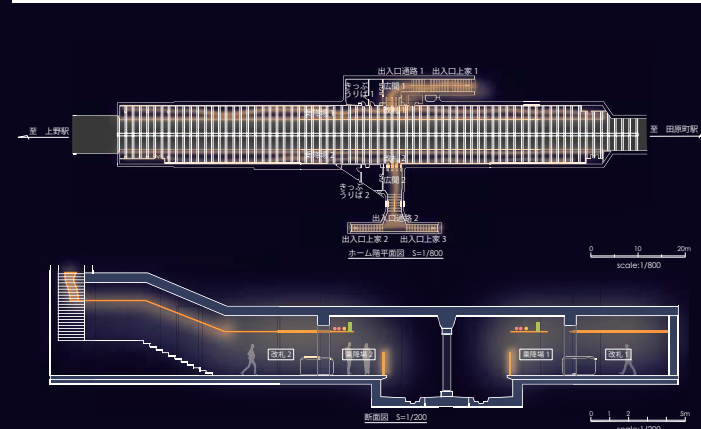


■照明計画

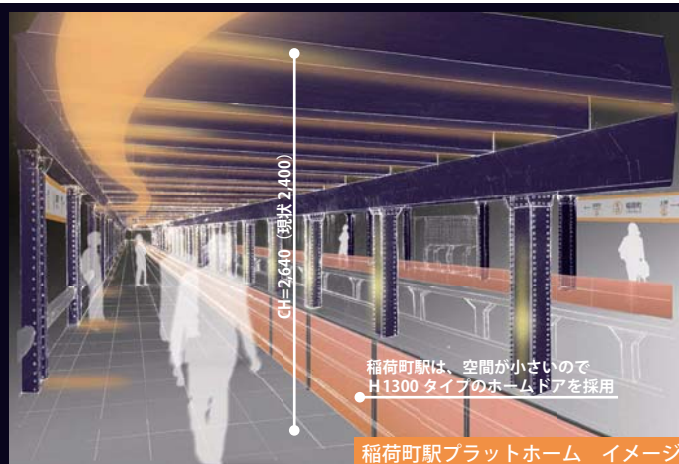
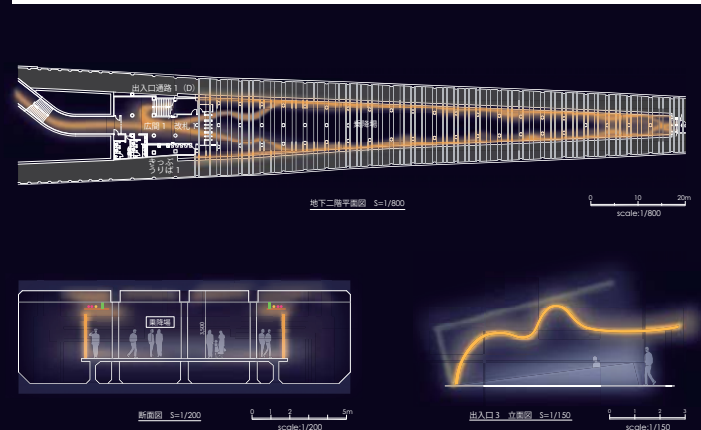
上野駅 Ueno Station



稲荷町駅 Inarityo Station



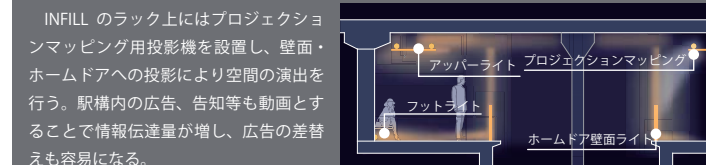
神田駅 Kanda Station



■光の演出

アッパーライトにより SKELETON に陰影をつけることで、建設時から変わる事の無い柱の重厚感や梁配置の規則性を際立たせ、銀座線が持つ歴史性を演出する。そして SKELETON に反射し間接光となった照明の光は、壁際下部やベンチ下に設置されたフットライトの光とともに上下からホーム空間全体をやわらかく包みこむ。

ホームドア壁面のライトは各駅の色となる色の演出を行うと共に、乗車時の足元照度を向上させることを目的としている。列車接近時には列車が近づくと共に徐々に明るくなることで注意喚起を行い、列車通過後には通常時の照度レベルまで再び低下させる。



■エリアコンセプト（下町）、周辺地域の歴史、地域性との調和

- ・上野：桜 / 寛永寺の創立以後山桜が植栽され、桜の名所として長く親しまれていることから。
 - ・神田：藍 / 江戸時代に藍染の町として大きく栄えていたことから。
 - ・稲荷町：赤 / 駅名の由来となっている下谷神社の鳥居の色より。
- ホームドアの仕上げに上記のカラーモチーフを表現し、銀座線の伝統である SKELETON と一体となった空間を創造する。

■銀座線路線コンセプト

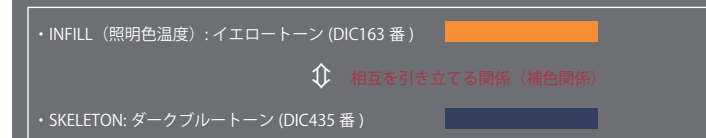
上記 (Fig.3) のように竣工当時の SKELETON を現わし、駅の機能として必要な設備ダクト、電気ケーブル、照明、サイン等の INFILL をまとめて必要最小限の空間に収める。それにより、ホーム空間は、今までよりも広くなり交通公共空間としてより視認性の高い空間となる。また、INFILL を覆う仕上げ材を各駅毎に特色を持たせエリアコンセプトとともに駅の個性を表現する。

■メンテナンス

不要な外装材を取り払い INFILL の集約を行うことで、SKELETON、INFILL 双方への点検 / 修繕を容易にするとともに、地震時における二次部材落下による事故発生の危険性を低減する。

■カラースキーム

銀座線のラインカラーである黄色 (DIC163 番) に近い色温度の演出照明とし、銀座線のイメージの統一感をねらう。また、それに対して伝統である SKELETON は、ラインカラー (DIC163 番) の補色関係にあるダークブルー (DIC435 番) を基調とし、照明や設備の入った先端を表す INFILL と伝統の SKELETON がお互いに引き立てあうカラースキームを計画する。



■テクスチャーイメージ

- ・SKELETON
柱、桁ともに既存を補修した後、ダークブルーの SOP 塗装を行う。
- ・INFILL
設備ダクト、電気ケーブル、照明、サインの入った INFILL 部分にエリアコンセプトを表現した仕上げ材・モチーフを選定し、そこから透ける光の違いを表現する。